

シェイク／スラッシュ フリーザー  
簡約使用説明書

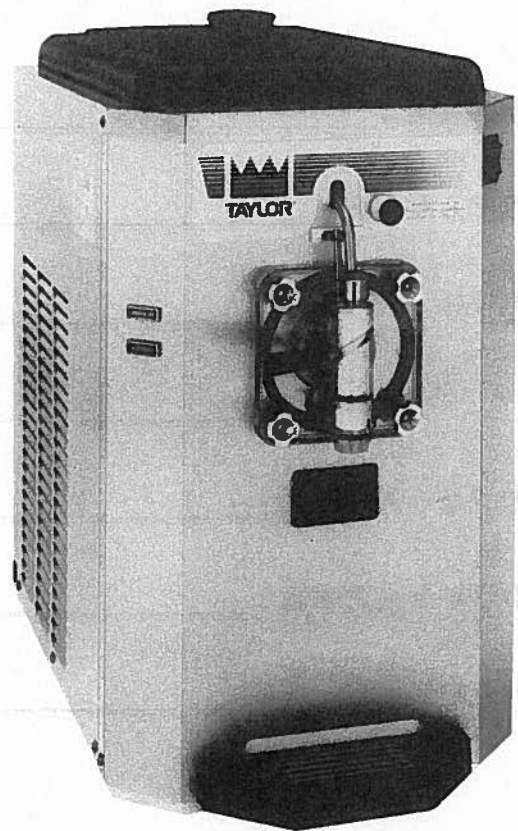


TAYLOR®



モデル 430 トルク

Japanese



操作説明書

本ページを埋めて点検・補修時の参照にご利用ください。

テイラー販売店名： \_\_\_\_\_

住所： \_\_\_\_\_

電話： \_\_\_\_\_

サービス： \_\_\_\_\_

パーツ： \_\_\_\_\_

設置日： \_\_\_\_\_

データプレートの記録：

モデル番号： \_\_\_\_\_

シリアル番号： \_\_\_\_\_

電気仕様： 電圧 \_\_\_\_\_ サイクル \_\_\_\_\_

位相 \_\_\_\_\_

最大フューズサイズ： \_\_\_\_\_ アンペア

最小ワイヤ電流容量： \_\_\_\_\_ アンペア

パーツ番号： \_\_\_\_\_

# テラー® オペレーター用使用説明書追加情報

ご利用の機器に該当する場合、オペレーター用使用説明書に以下の手順を追加してください。

## ピーター本体

### 手順1

ピーター本体を設置する前にスクレーパーブレードとクリップの状態を点検します。

スクレーパーブレードに摩耗や破損がないことを確認します。スクレーパーブレードに傷や磨耗がある場合は、両方の刃を交換してください。

スクレーパーブレードのクリップが曲がっておらず、クリップ全体の溝が均等であることを点検します。破損したクリップを交換します。

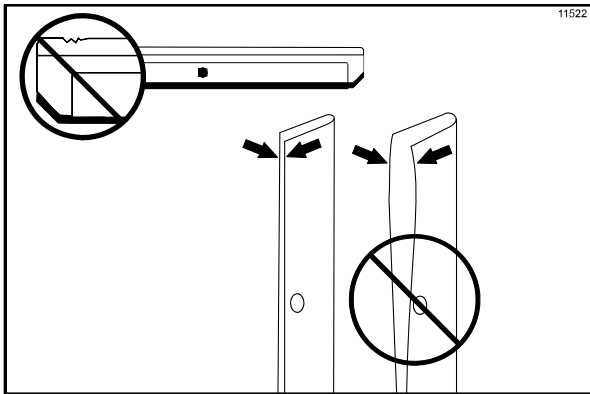


図1

### 手順2

ピーターシューズを設置する前に、傷、亀裂、および摩耗がないことを確認します。ある場合、ピーターシューズを取り替えます。

## フリーザードア本体

### 手順1

フリーザードアを設置する前に、ドアベアリング、ドアガスケット、ドローバルブ、Oリング、及びドローバルブ孔内を含め、ドア本体の全側面に傷、亀裂、摩耗がないことを確認します。破損したパーツを交換します。

## ミックスポンプ本体

ご利用の機器にミックスポンプが装備されている場合は、次の手順に従います。

### 手順1

ゴムとプラスチックポンプのパーツを点検します。ポンプと機器全体が正しく作動するためには、Oリング、チェックリング、およびガスケットが完璧な状態にあることが必要です。傷、切れ目、穴などがあると、これらのパーツはその役目を完全に果たすことができません。

プラスチック製のポンプのパーツに亀裂、摩耗、デラミネーションが無いことを確認します。

不完全なパーツは速やかに交換し、廃棄してください。

## 消毒およびプライミングの手順

**重要！** 消毒液が冷凍シリンダーから完全に除去され、適切なプライミング処理が完了するまでは、機器を自動(AUTO)にすることはできません。この指示に従わないと、冷凍シリンダーの損傷を招く恐れがあります。

© 2015 Carrier Commercial Refrigeration, Inc.

いかなる人物による本書のいずれの部分に対する無許可の複製、開示、コピーの配布も、米国およびその他の国の著作権違反となる可能性があります。最高25万ドル(17 USC 504)の法定損害賠償、および民事処罰と刑事処罰の対象となることがあります。著作権所有。



Taylor Company

a division of Carrier Commercial Refrigeration, Inc.  
750 N. Blackhawk Blvd.  
Rockton, IL 61072



# 目次

第1章	安全について.....	1
第2章	操作手順.....	2
	組立.....	2
	消毒.....	5
	プライミング(充填).....	6
	冷凍シリンダーからの食品材料流し出し.....	7
	すすぎ.....	7
	クリーニング.....	7
	分解.....	8
	ブラシクリーニング.....	8


注意： 継続的な研究調査に基づいての改善が行われることにより、本説明書の内容も予告なしに変更されることがあります。





テラー社では、オペレーターがフリーザーやそのパーツに触れるときの安全性について注意を心掛けております。テラー社はお客様とサービス技術員たちの安全を守るために、それを目的とした機能を設計や製造段階から組み入れ、最善の対応を行なっております。その一例として、フリーザーに警告ラベルを貼り付け、オペレーターに対し安全に関する留意点をより細かに示しています。


重要—以下に掲げる安全のための心掛けに従わない場合、人身に重大な傷害を招く恐れがあります。これらの警告に従わない場合、機器や構成部品に損傷を与える恐れもあります。構成部品に損傷を与えた場合、パーツ交換や修理サービスなどの費用発生のもととなります。


## 安全な操作のために：


 このオペレーター用使用説明書を読まずに本フリーザーの運用は行わないでください。本説明書の指示に従わない場合、装置に損傷を与えたり、フリーザーの稼働効率を下げたり、また健康を害したり、人身に傷害を与えたりするなどの恐れがあります。


 アースを正しく接続しないうちに本フリーザーの運用を行わないでください。この指示を怠ると感電死を招く恐れがあります。


 本機操作の未熟練者に取扱いさせることは行わないでください。この指示を怠ると可動パーツの危険性により手や指など身体に重大な傷害を招く恐れがあります。


 本フリーザーの主電源を接続したままで補修などを行わないでください。この指示を怠ると感電死を招く恐れがあります。各種サービスについては最寄りのテラー正規販売店にお問い合わせください。


 本フリーザーのデータ表示ラベルにある指定より大容量のフューズを用いて本フリーザーの運用を行わないでください。この指示を怠ると感電死や機器に損傷を招く恐れがあります。担当の電気技師にお問い合わせください。

 全てのサービスパネルやアクセスドアをネジでしっかり固定しないまま本フリーザーの運用を行わないでください。この指示を怠ると可動パーツの危険性により身体に重大な傷害を招く恐れがあります。

 空気取入口や排出口をふさぐようなことは行わないでください。前面、両脇、背面にはそれぞれ最低6インチ(15.2cm)の空間が必要です。この指示を怠ると稼働効率の低下や機器に損傷を起こす恐れがあります。

 ドア噴出口に物や指などを突き込むことは行わないでください。この指示を怠ると食品を不衛生にしたり、かき刃に触れて身体に傷害を招いたりする恐れがあります。

 制御スイッチをすべて「OFF」にしない場合は、内部駆動パーツ(フリーザードア、回転棒、かき刃、など)の取外しは行わないでください。この指示を怠ると可動パーツの危険性により身体に重大な傷害を招く恐れがあります。

 回転棒組立部を取り外す際は細心の注意を払ってください。かき刃は鋭く尖っており、けがをする恐れがあります。

騒音レベル：外部空間に発する騒音量は、本機の表面部より1.0mかつ床より1.6mの位置にて計測時に、78デシベル(A)以下です。

## 組立

### 手順 1

回転シャフトの両溝に潤滑油を塗り、Oリングを取り付けます。Oリングおよびシャフトのベアリングと接触する部分に潤滑油を塗ります。回転シャフトの四角の先端部には潤滑油を付けないでください。ブーツシールの溝に潤滑油を塗り、ブーツシールを取り付けます。ブーツシールの内側を十分に潤滑油で満たし、後部シェルベアリングと当たる先端部にも潤滑油を塗ります。回転シャフトを取り付けます。

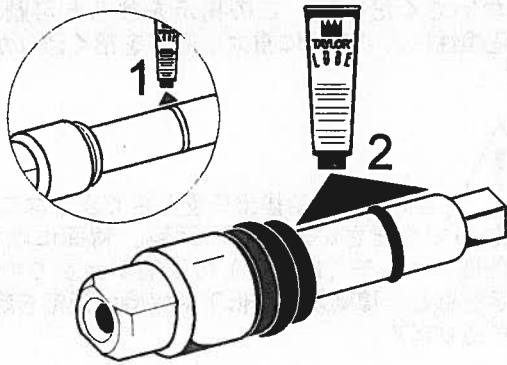


図 1

注意：取り付け時はブーツシールの裏表に注意してください。

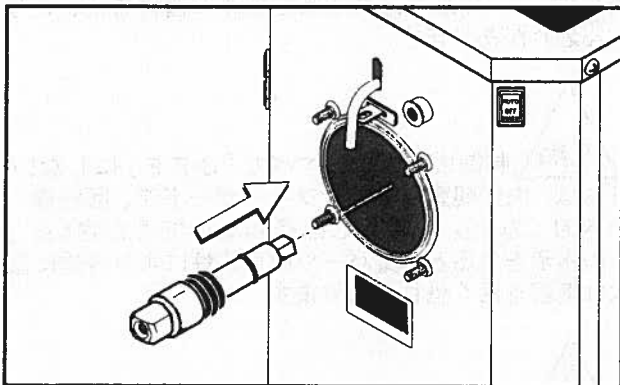


図 2

### 手順 2

回転棒組立部を組み込みます。かき刃およびクリップを回転棒組立部に取り付けます。

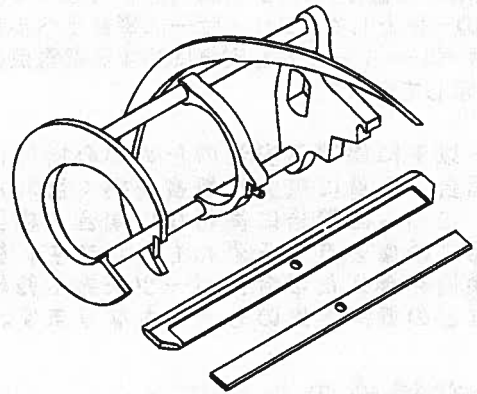


図 3

かき刃に注意しながら回転棒を持ち、冷凍シリンダーの中に挿入し、回転シャフト先端部の平面部と回転棒後部の穴とを合わせます。

回転棒の残りの部分を冷凍シリンダーの中に挿入し、回転シャフト先端部にかぶせます。

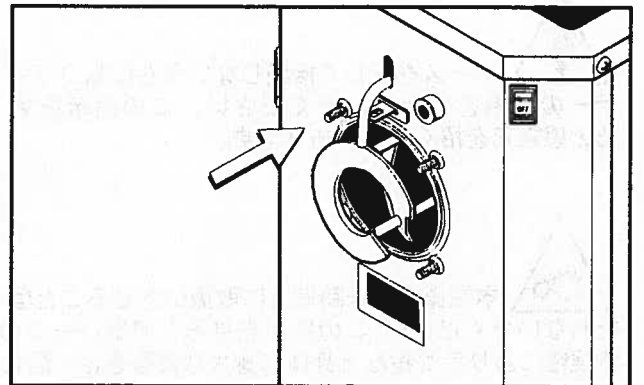


図 4



### 手順 3

トルクローター先端部の短い方に白いプラスチックのガイドベアリングを取り付けます。トルクローター先端部の長い方の溝にリングを取り付け、そのリングに潤滑油を塗ります。ガイドベアリングには潤滑油を付けしないでください。

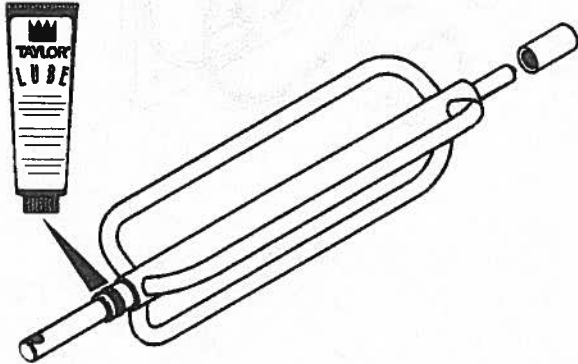


図 5

### 手順 4

トルクローターを（ガイドベアリングの側から）回転シャフト中心の案内孔に挿入します。

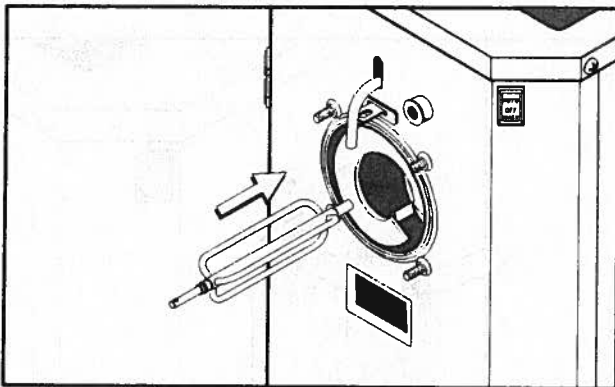


図 6

### 手順 5

「アイスバスター」（ドア噴出口クリーニング装置）付きフリーザードアを組立てます。アイスバスター付きドアを組立てるには、ドローバルブにリングを取り付け、潤滑油を塗ります。

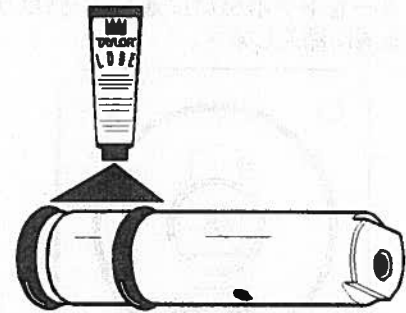


図 7

ドローバルブをドアに挿入します。

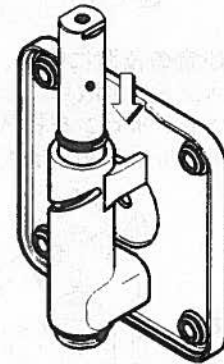


図 8

ドローバルブを回転させ、ドローバルブ上端の平面部がドア面に対して直角となるようにします。

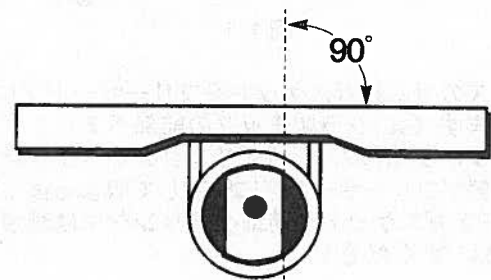


図 9

アイスバスターをドア噴出口に通し、下側Oリングの少し上にある溝に挿入します。

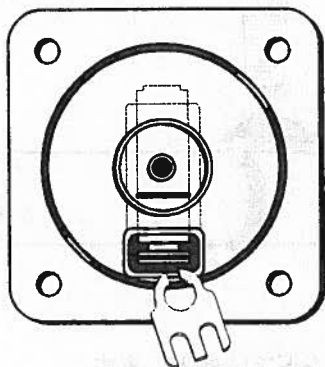


図10

アイスバスターを所定の位置に置き、ドローバルブを回転させてドローハンドルの取り付けが行なえるようにします。ドローハンドルピンを挿入し、ハンドルを左側に回してドローバルブを閉じます。

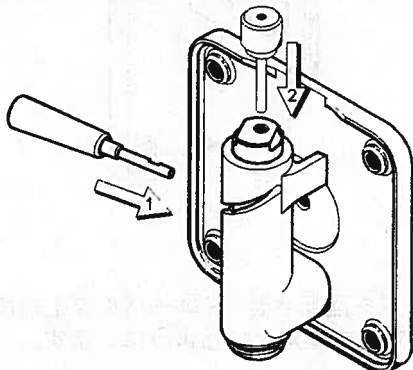


図11

大サイズのゴム製ガスケットをフリーザードアにはめ込みます。白いプラスチックの前部ベアリングをベアリングハブに挿入し、ベアリングのフランジ付けた先端部がフリーザードアに安定して収まるようにします。ドアガスケットや前部ベアリングには潤滑油を付けしないでください。

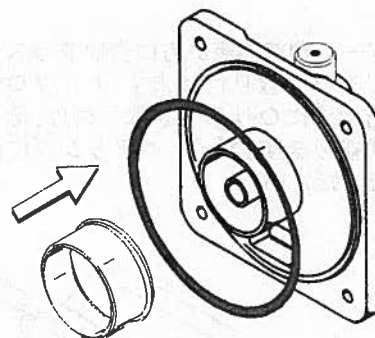


図12

手順 6

トルクアームをトルクスイッチアームの溝に通し、ドアから突き出ているトルクローターの穴の中に下し入れます。

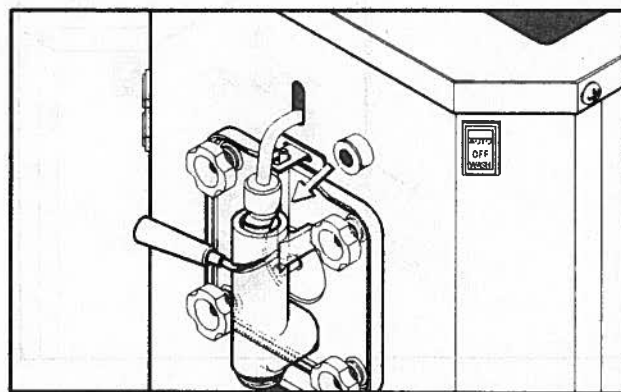


図13

### 手順 7

前部しずく受けを取り付けます。長いしずく受けを前面パネルの穴に挿入します。

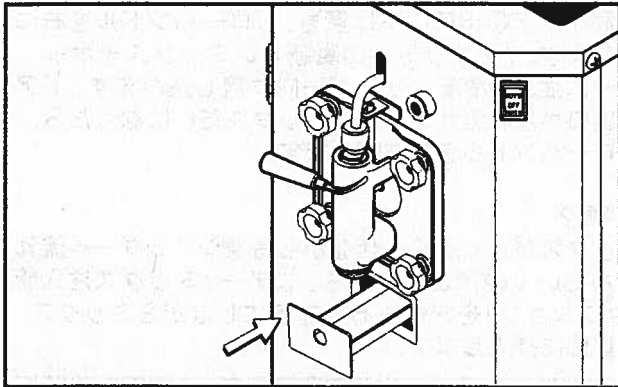


図 14

### 手順 8

前部しずく受けとはねよけをドア噴出口の下に取り付けます。

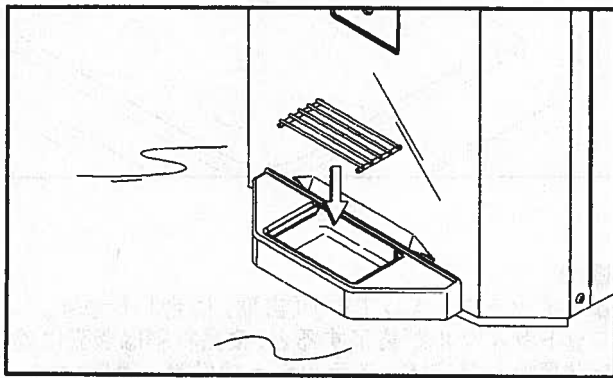


図 15

### 手順 9

エアー/ミックス注入管 (オプション) をミックスホッパーの底に置きます。

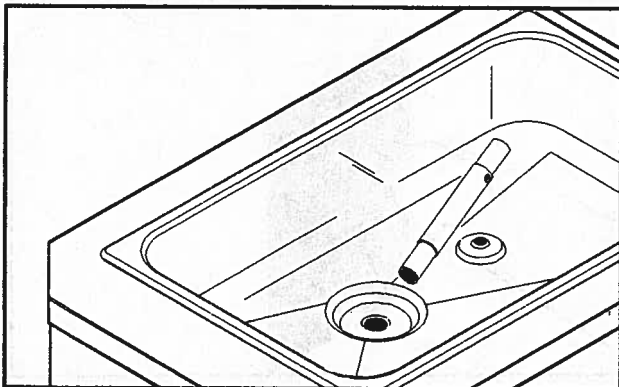


図 16

## 消毒

### 手順 1

7.6リットルの指定の消毒溶液を用意します。温水を用い、製造メーカーの指定に従ってください。

### 手順 2

消毒溶液をホッパーに注ぎ、冷凍シリンダー内に流し込みます。

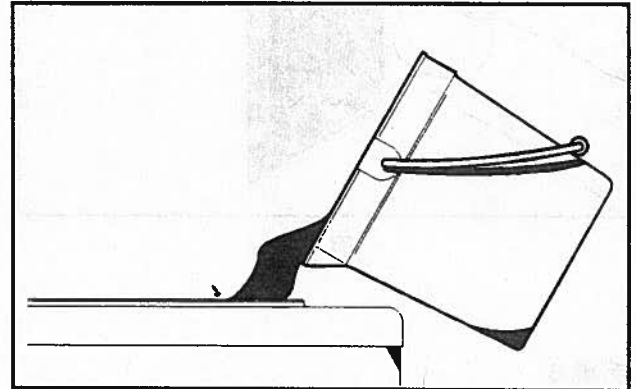


図 17

### 手順 3

クリーニング溶液が冷凍シリンダー内に流れ込んでいく間、ミックスホッパー、エアー/ミックス注入管 (オプション)、ミックス入口部をブラシみがきをしてきれいにします。

### 手順 4

電源スイッチを「WASH」(洗浄) にします。消毒溶液を5分間攪拌させます。

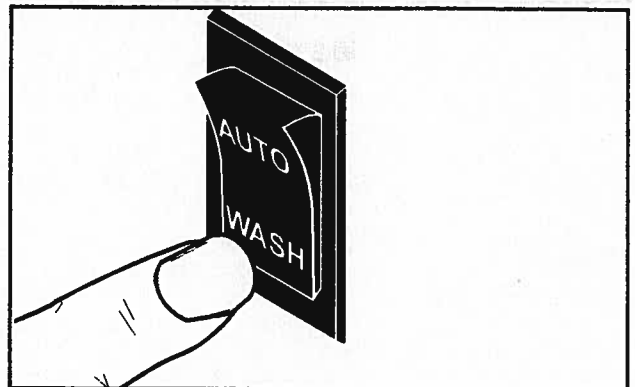


図 18

### 手順 5

空のミックス容器をドア噴出口の下に置き、ドローハンドルを右に回します。消毒溶液を全て流し出します。ドア噴出口からの消毒剤の流れが止まったら、ドローハンドルを左に回し、制御スイッチを「OFF」位置にします。

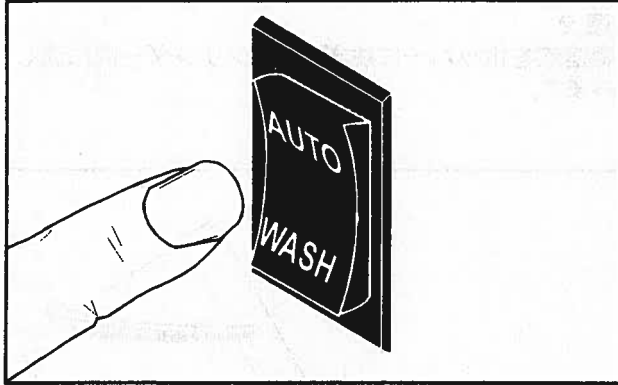


図19

### 手順 6

エアー/ミックス注入管 (オプション) をミックスホッパーの隅に立てかけます。

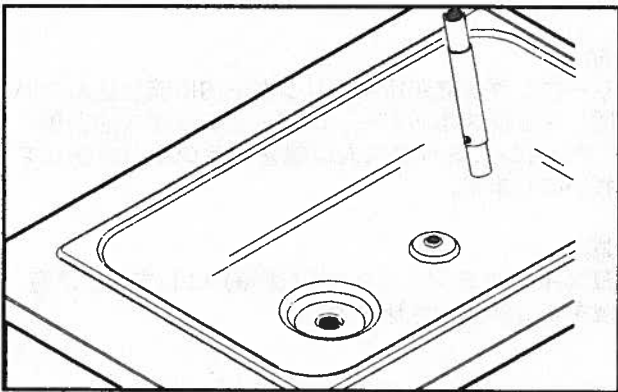


図20

## プライミング (充填)

### 手順 1

容器をドア噴出口の下に置き、ドローハンドルを右に回します。7.6リットルの真新しいミックスをホッパーに注ぎ、冷凍シリンダー内に流し込みます。ドア噴出口からの流れが完全にミックスだけになったら、ドローハンドルを左に回します。

### 手順 2

ミックスがぶくぶくさせながら冷凍シリンダーへ流れ込んでいくのが止まったら、エアー/ミックス注入管 (オプション) を穴がある方を下にしながらミックス入口部に挿入します。

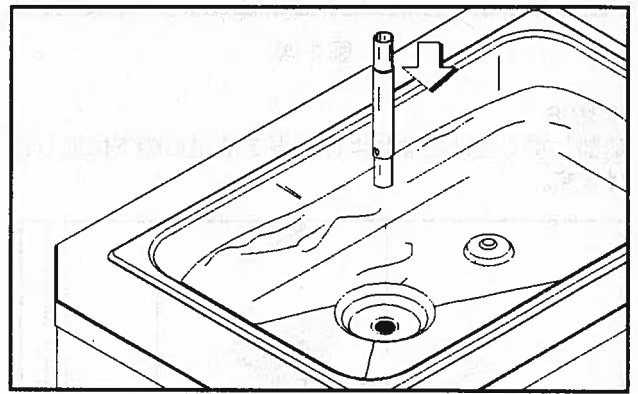


図21

### 手順 3

電源スイッチを「AUTO」(自動)に合わせます。ユニットサイクルが終了すると、食品材料は販売に適した粘度となります。スラッシュの粘度(濃度)は、前面パネル右上にある粘度調整ネジを回すことで調整可能です。粘度調整ネジを時計回りに回すと濃度が上がり、時計と反対回りに回すと濃度が下がります。調整後は、冷蔵システムに対しサイクルを2~3回繰返し、適正な粘度であることを確かめてください。

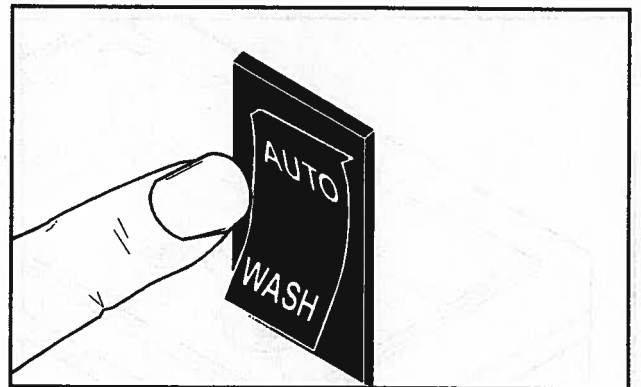


図22

#### 手順 4

ミックスホッパーのカバーを所定の位置に置きます。

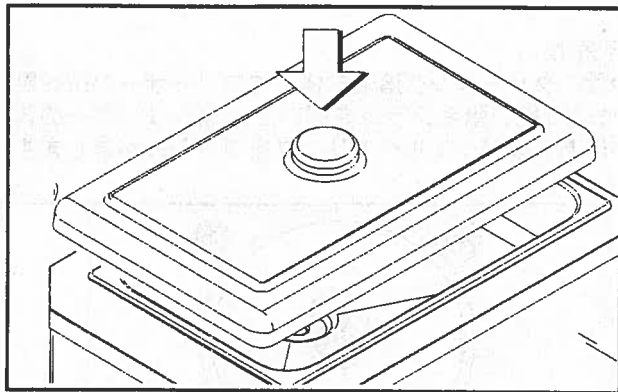


図 2 3

## 冷凍シリンダーからの 食品材料流し出し

#### 手順 1

クリーニング前には少しでも早めに電源スイッチを「OFF」位置にしておきます。

#### 手順 2

ホッパーカバーを持ち上げます。機器ユニットにエア／ミックス注入管が備え付けられている場合、それは流しで洗います。

#### 手順 3

消毒剤の容器をドア噴出口の下に置き、電源スイッチを「WASH」(洗浄)に合わせ、ドローハンドルを右に回します。ドア噴出口から食品材料が全て流れ終わったら、ドローハンドルを左に回し、電源スイッチを「OFF」位置にします。

## すすぎ

#### 手順 1

7.6リットルのきれいな常温の水をミックスホッパーに流し込みます。備品のブラシを用いて、ミックスホッパーとミックス入口部をこすり洗いします。

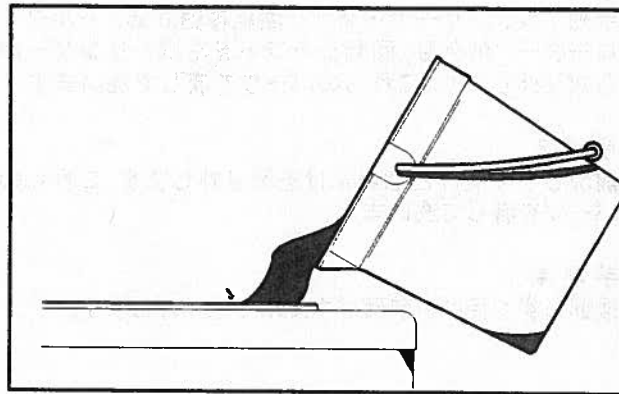


図 2 4

#### 手順 2

容器をドア噴出口の下に置き、電源スイッチを「WASH」(洗浄)に合わせ、ドローハンドルを右に回します。ドア噴出口からすすぎ水の流れが止まったら、ドローハンドルを左に回し、制御スイッチを「OFF」にします。

この手順を冷凍シリンダーから流れ出るすすぎ水がきれいになるまで繰り返します。

## クリーニング

#### 手順 1

7.6リットルの指定のクリーニング溶液を用意します。温水を用い、製造メーカーの指定に従ってください。

#### 手順 2

クリーニング溶液をホッパーに注ぎ、冷凍シリンダー内に流し込みます。

#### 手順 3

ミックスホッパーとミックス入口部をブラシでみがいてきれいにします。

#### 手順 4

電源スイッチを「WASH」(洗浄)に合わせます。

#### 手順 5

クリーニング溶液をすべて流し出します。ドア噴出口から溶液が流れ終わったら、ドローハンドルを左に回し、電源スイッチを「OFF」位置にします。

## 分解

### 手順 1

制御スイッチが「OFF」になっていることを確認してください。

### 手順 2

手動ネジ、フリーザードア、回転棒組立部、トルクローター、かき刃、回転シャフトを冷凍シリンダーから取り外します。これらのパーツを流しで洗います。

### 手順 3

前部しずく受けとはねよけを取り外します。これらのパーツを流しで洗います。

### 手順 4

後部しずく受けを前面パネルから取り外します。

## ブラシクリーニング

### 手順 1

流しにクリーニング溶液を用意します。温水を用い、製造メーカーの指定に従ってください。

### 手順 2

Oリングとシールを回転シャフトから取り外します。Oリングとベアリングをトルクローターから取り外します。

### 手順 3

ドローバルブ、アイスバスター、前部ベアリング、ガスをケットをフリーザードアから取り外します。Oリングを全て取り外します。

### 手順 4

分解したパーツは全てブラシを用いてクリーニング溶液で十分きれいにします。きれいになったパーツは全て清潔で乾燥した所に置いて空気乾燥させます。

### 手順 5

少量のクリーニング溶液を持ってフリーザーの所へ戻ります。黒い剛毛ブラシを用いて冷凍シリンダーの後ろにある後部シェルベアリングをブラシみがきします。

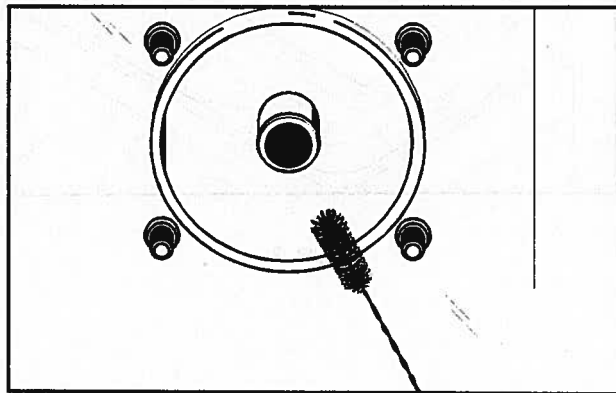


図 2 5

### 手順 6

フリーザーの外面全体をきれいに拭き取ります。